

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 3 区分

【発行日】平成21年1月29日(2009.1.29)

【公開番号】特開2007-163110(P2007-163110A)

【公開日】平成19年6月28日(2007.6.28)

【年通号数】公開・登録公報2007-024

【出願番号】特願2005-364156(P2005-364156)

【国際特許分類】

F 2 4 F 13/28 (2006.01)

【F I】

F 2 4 F 1/00 3 7 1 A

【手続補正書】

【提出日】平成20年12月10日(2008.12.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

本体に設けられた吸込口と吹出口を結ぶ空気通路に、除塵用のエアフィルターを配置してなる空気調和機において、前記エアフィルターを清掃する清掃体を具備してあるとともに、前記清掃体は、清掃片とロータを有する回転ロータで構成されてあると共に、該清掃体を介して、前記エアフィルターに振動を与える加振手段を備えたことを特徴とする、空気調和機の清掃装置。

【請求項 2】

回転ロータの回転中心を偏芯させたことを特徴とした、請求項 1 記載の空気調和機の清掃装置。

【請求項 3】

回転ロータの清掃片を、空気調和機本体に設置された邪魔体で撓ませてエアフィルターを叩くことを特徴とした、請求項 1 又は 2 記載の空気調和機の清掃装置。

【請求項 4】

回転ロータは少なくとも一つ以上の叩き片を有することを特徴とした、請求項 1 ～ 3 の何れかに記載の空気調和機の清掃装置。

【請求項 5】

回転ロータの回転数の切替え手段を有することを特徴とした、請求項 1 ～ 4 の何れかに記載の空気調和機の清掃装置。

【請求項 6】

回転ロータの清掃片の先端部近傍に凹凸の加工を施したことを特徴とする、請求項 1 ～ 5 の何れかに記載の空気調和機の清掃装置。

【請求項 7】

回転ロータの回転を停止させた状態で、加振手段により前記回転ロータに振動を与えるとともに、清掃片を介して、エアフィルターへ加振させることを特徴とする、請求項 1 ～ 6 の何れかに記載の空気調和機の清掃装置。

【請求項 8】

回転ロータの回転を停止させた状態で、加振手段により前記回転ロータに振動を与えるとともに、清掃片を介して、エアフィルターへ垂直に加振させることを特徴とする、請求項 1 ～ 7 の何れかに記載の空気調和機の清掃装置。

【請求項 9】

少なくとも 1 条以上の清掃片が、回転ロータの長手方向の軸の周りに、螺旋状に捩られて形成されたことを特徴とする、請求項 1 ～ 8 の何れかに記載の空気調和機の清掃装置

【請求項 10】

本体に設けられた吸込口と吹出口を結ぶ空気通路に、除塵用のエアフィルターを配置してなる空気調和機において、前記エアフィルターを清掃する清掃体を具備してあるとともに、該清掃体を介して前記エアフィルターに振動を与える加振手段を備えたものであって、該加振手段は、前記清掃体に取り付けられたカムを回転させることによって、該清掃体に振動を与えるものであることを特徴とする、空気調和機の清掃装置。

【請求項 11】

請求項 1 ～ 10 のうち、何れかに記載の清掃装置を有する空気調和機。